

「研究科長賞」について

岩永恭雄 信州大学教育学部理数科学教育講座
(前・信州大学大学院教育学研究科長)

信州大学教育学研究科における「研究科長賞」は2007年度に設けられました。この賞は、その年度に提出された修士論文の中から、研究科長が優秀と認めたものに授与され、卒業式の後の謝恩会で授賞式が行われます。過去3回の受賞者と受賞論文は下記の通りです。

- ・ 2007年度 林 優希 (学校教育専攻障害児教育専修)
『数学的スキルと注意記憶・空間・算数的感度との関係性に関する研究—算数困難児への支援方針の検討』
- ・ 2008年度 岡村ゆかり (教科教育専攻社会科教育専修)
『法教育における「積み重ね」授業プロセスの理論と実践』
- ・ 2009年度 駒井健吾 (教科教育専攻英語教育専修)
『第二言語の付随的語彙学習における内容理解問題の効果』

2008年度からは、受賞論文が本研究論集に掲載されることになり、2008年度の上記受賞論文は第2号(平成22年3月発行)に、学術論文としての体裁を整えた上で、本学部の関良徳教員との共著論文として掲載されています。

2009年度の受賞論文についても、本研究論集への掲載を予定していましたが、既に「中部地区英語教育学会紀要」40号、2011年に『リーディングの事後タスクが付随的L2語彙学習に与える影響』のタイトルで出版されたとのことです。そこで、本研究論集には掲載しないことになりましたが、昨年と同様に、受賞理由を記しておきます。

著者による論文要旨では、『This study aimed at investigating the effects of post-reading comprehension questions on second language (L2) incidental vocabulary learning.』と冒頭に述べられています。本修士論文の優れた点は、研究テーマに対する着眼点の良さとしっかりした研究デザインにあります。特に、科学的手法に基づいた実験群の採用と効果の検証は、人文科学の論文ではあるが、自然科学における実験に基づいた理論展開と同様のものを感じさせ、良く書けた修士論文です。